



校訓 「自立 協同 創造」
校是 「生きるとは 分かちあうこと」

養父市立養父中学校 学校だより
(令和7年10月30日) 第26号

学校教育目標「しなやかな強さをもち 協働的・創造的に活動できる生徒の育成」

令和8年度公立高等学校募集定員

先月、令和8年度兵庫県公立高等学校募集定員が兵庫県教育委員会より発表されました。それを見ると、但馬地区（兵庫県第5学区）にある高等学校はいずれも令和7年度から募集定員が変わらないことが分かりました。その令和7年度入学者選抜（入試）において、募集定員を上まわる出願があった高等学校は但馬地区（兵庫県第5学区）ではごく一部であり、ほとんどの高等学校が定員割れの状態で入学者選抜（入試）が行われたことはご承知のとおりです。このままでは、令和8年度入学者選抜においても同様の状態になることが大いに予想され、「希望する高等学校へ入りやすいのはけっこうなことではあるものの、このままでは但馬の中学生の学習意欲が低下してしまうのではないかと心配する声も少なくありません。急激に少子化が進む昨今、但馬地区におけるこのような状態はすでに10数年前から続いており、実は毎年のように挙がってくる声ではあるのですが、中学生の進路指導において大切なことは何かについて、今一度いっしょに考えてみたいと思います。以下は、学習指導要領「総則編」に書かれている事柄です。



学習指導要領解説「総則編」

生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

進路指導をしていく上では、「キャリア教育」を充実させるということが大切であると述べられています。では、この「キャリア教育」とはどのような教育のことを言うのでしょうか。

学習指導要領解説「総則編」

キャリア教育とは、生徒に将来の生活や社会、職業などとの関連を意識させ、キャリア発達を促すもの。

※キャリア発達…

「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程。」

やや難しい表現ですね。私なりの解釈になりますが、「自分の持っている能力や興味関心および考え方を生徒自身が自覚し、将来、社会人（職業人）として生きていくための準備をしていく。」という視点が「キャリア教育」には必要であるということになるでしょうか。さらに、学習指導要領（総則編）には以下のようなことも書かれています。

学習指導要領解説「総則編」

キャリア教育を進めるに当たり、家庭・保護者の役割やその影響の大きさを考慮し、家庭・保護者との共通理解を図りながら進めることが重要である。

学校を中心にして行っていく「キャリア教育」ですが、保護者の皆様の参画が不可欠です。具体的には、以下のようなことを念頭に置いて子どもさんと対話していただくと良いかと思います。

- (1) 働くことの意義ややりがい、働くことの苦勞など親の勤勞観を聞かせる。
- (2) 生徒がどのような将来展望をしているかに耳を傾ける。
- (3) 子どもの能力、特性、興味関心などに応じて親としての意見を述べる。
- (4) 将来展望が難しい場合は、親自身の経験談などを交えながら展望を持たせる。
- (5) かりに長期的な展望が持てない場合は、まずは18歳時の自分の姿をイメージさせる。

(1)～(5)の対話を基盤にして具体的な進路先(志望高校等)を決めていくわけですが、進路指導において注意していただきたいことを以下にお示します。

- ◆合格できるかどうかよりも、本当に子どもさんに合っている学校かを考えるようにしましょう。
- ◆学校がエスコートして進めてはいきますが、学校に任せきりにしないようにしましょう。
- ◆「自分のことだから自分で決めなさい」と子どもさんを放任してしまわないようにしましょう。
- ◆「進路指導は3年生になってから」ではなく、1年生時から進路に関する対話を継続しましょう。

但馬中学校駅伝競走大会

10月28日(火)、豊岡市日高町の奥神鍋周辺道路を使って但馬中学校駅伝競走大会が開催されました。養父中学校からは男女各2チームが出場し、肌寒い神鍋路を懸命に駆け抜けました。その結果、まず女子 A チーム(①3.2km②2.1km③2.1km④2.1km⑤3.2km)が第7位、B チームが11位という結果を収めました。上位6チームに与えられる県大会出場権については、A チームがわずか3秒差で逃す結果となり、悔しがる選手達の姿が印象的でした。

いっぽう、男子 A チーム(①3.2km②3.2km③3.2km④3.2km⑤3.2km⑥3.2km)が他校とのデッドヒートの末第4位に入り、見事に県大会への出場権を得ました。B チームは17位でしたが、最後まで懸命に走る姿に沿道から大きな拍手が寄せられました。よく頑張ったと思います。

さて、この但馬中学校駅伝競走大会ですが、少子化の影響もあって年々出場チームが減ってきており寂しさを感じます。そんな中、養父中学校からは男女計4チームが参加し、あちらこちらから評価の声を頂戴しました。レース後、引率の教員からは「長い距離を走ることは苦しいことではあるが、これだけ多くの生徒が参加してくれたことが嬉しい。」という言葉が生徒へ贈られました。全くそのとおりだと大きくなすきました。

ところで、今回の大会では関宮学園女子が第3位で県大会出場権を得ましたし、八鹿青溪中学校の男女が上位入賞で同じく県大会出場権を得るなど養父市のチームが大活躍でした。また、大屋中学校もたいへんよく健闘して素晴らしい駅伝競走大会になりました。

